



旧河川跡
 旧河川跡は調査機関や時期の違いにより2通り載せていますが、いずれも航空写真による鑑別観察や地表に残されている溝状のかすかな凹地を調査し、まとめた資料を基にしています。

産総研 地質調査総合センター 『札幌及び周辺部地盤地図』 (1991)
 道総研 二条ルネー-環地-地質研究所 『北海道地盤地図 No.1』 (1974)

※マップ中の旧河川は 1800 年代初頭まで存在し、それ以降は豊平川に流れが切り替わったことにより河川跡として地表に残されたものです。

胆振川
 ※胆振川については、裏面の「創成川いまむかし」の欄をご覧ください。

まちあるき上級者の視点
 旧河川の跡は今もまちなかに残っています。土地の高低差に注目して観察してみましょう。

◎の地形を ← の方向から見てみよう

明治時代の札幌市街には、幾筋もの川が流れ、アイヌ語で「MEM」と呼ばれる湧き水もあちらこちらで見られました。都市化に伴ってそのほとんどは姿を消しましたが、痕跡は今も土地の高低差(微地形)から読み取ることができます。

中島公園
 豊平川の分流のひとつである鴨々川の中洲につくられた公園。明治初期の鴨々川の「鴨々中島」にあった開拓使の貯木場を池として、1887(明治20)年「中島遊園地」が造成。1907(明治40)年から「中島公園」に改称。現在の菖蒲池は貯木場の名残です。

創成川公園
 アンダーパス連続化に伴って2011(平成23)年に完成しました。

令和元年9月頃の基図を使用しています。